

新たな将来交通需要推計モデルの構築に当たっては、全国及び地域別の将来交通需要を算出する「1. 全国及び地域ブロック別の走行台キロ等の推計」、及び、それらから路線別交通量を推計する過程に必要な「2. 将来発生集中交通量推計及び将来OD交通量推計」について検討を進める。

1. 全国及び地域ブロック別の走行台キロ等の推計に関する検討

- (1) 近年の交通需要動向の把握  
近年の交通需要動向の分析、その要因の整理
- (2) 交通需要推計の外生変数及び想定される将来シナリオの検討  
全国・地域別将来人口とGDP及び地域別GRPの将来値の想定等、将来シナリオを検討
- (3) 近年の動向を踏まえた具体的なモデル構造の検討  
近年の交通需要動向を踏まえ、将来交通需要推計に反映すべき要因の抽出、モデルへの反映方法の検討
- (4) モデルのパラメータ推定及び現況再現性の検討  
具体的な説明変数に基づいてパラメータを推定するとともに、モデルの現況再現性を検討
- (5) 推計手順に関する検討  
これまでの走行台キロの伸び率からブロック別発生量を推計する手順ではなく、台トリップ数の伸び率を用いる手順について検討
- (6) 将来交通需要の前提条件の整理  
各説明変数の将来想定値等についての条件設定を行う
- (7) 将来交通需要の試算とその妥当性の検証  
将来交通需要に関する試算を行うとともに、感度分析等によりモデルの妥当性を検証

**旅客交通需要推計モデル全体について**

- 発生原単位と機関分担の同時推計の可能性  
→長期的な課題とし、本検討会での対象外とする
- 地域の細分化(大都市圏、地方圏、中山間地域等)の検討  
→モデルに反映すべき分割内容の検討、サンプル数等のデータ制約のチェック

**貨物交通需要推計モデル全体について**

- GDPを用いない方法の可能性  
→長期的な課題とし、本検討会での対象外とする
- 物流のメカニズムを反映させたモデル化  
→反映可能な内容の明確化
- 品目の詳細化・統合化の必要性と限界  
→交通特性とサンプル数等のデータ制約からの検討

将来シナリオに基づく将来GDPの想定  
→公表されている政府機関等の将来値を使用することを基本。別途、外部有識者の見解を伺う

産業構造の変化、高付加価値化を反映した品目別生産額・輸入額、品目別原単位の推計  
→モデルへの組み込み方法の検討、将来値の想定

貨物車の長距離化の反映  
→モデルへの組み込み方法の検討、将来値の想定

貨物車の平均輸送トン数の変化を反映  
→モデルへの組み込み方法の検討、将来値の想定

高齢化の進行、高齢者・女性のアクティビティの向上等、個人属性別交通特性のモデルへの反映  
→モデルへの組み込み方法の検討、将来値の想定

大都市部での自動車利用減少と地方部での自動車利用増加等、地域別交通特性の反映  
→モデルへの組み込み方法の検討、将来値の想定

軽自動車の普及とそれに伴う利用特性の変化の反映  
→モデルへの組み込み方法の検討、軽自動車普及率の将来値、使用形態の想定

**旅客・貨物に関するモデル構築全体について**

- モデルの精度検定に関する基準の明確化  
→指標の明確化と多様な視点から妥当性チェック
- 定数項補正について  
→定数項補正を行わない方法の提案

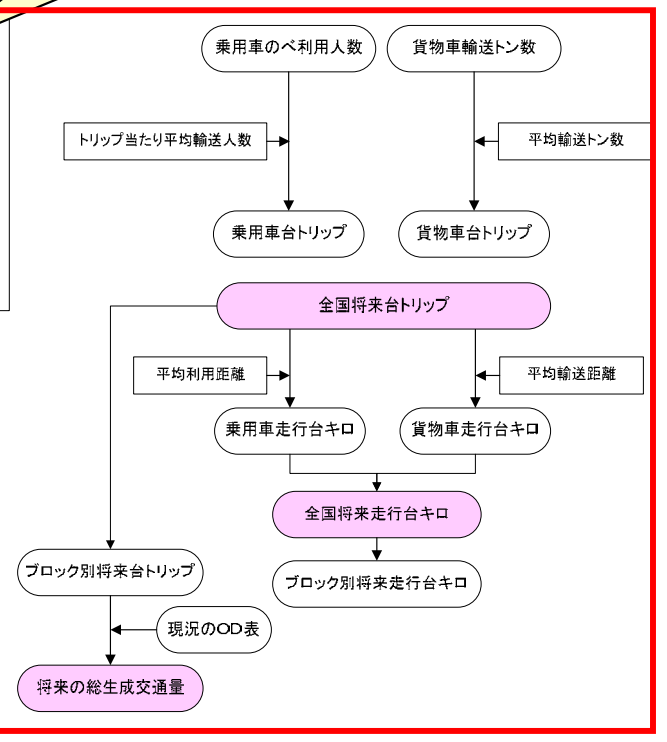
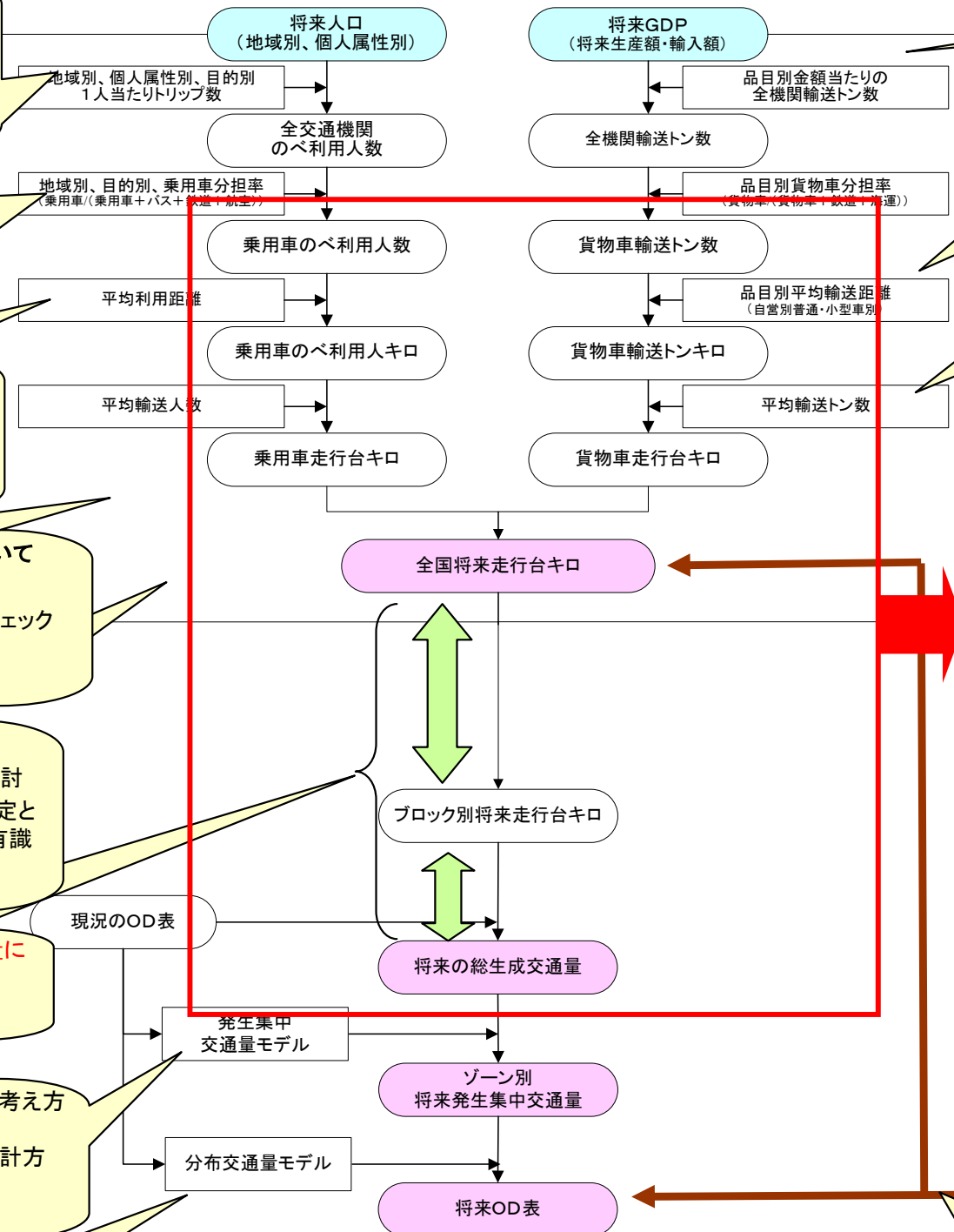
**将来シナリオについて**

- 全国モデルにおける将来シナリオ導入の検討  
→国内外のレビューを行うとともにシナリオ設定と感度分析を実施。必要に応じて、別途、外部有識者の見解を伺う

全国・地域ブロックにおける発生集中交通量について、台トリップ数の伸率を用いる手順  
→具体的推計手順の提案

各地方整備局が実施する統一モデルの考え方(算出手法・説明変数・関数型の設定)  
→統一かつモデルの精度向上に向けた推計方法の提案

新たなデータに基づく時系列データを用いた分布交通量推計モデルの考え方  
→精度向上に向けたモデルの提案



推計された全国の走行台キロと将来OD表から算出される走行台キロとの整合チェック  
→それぞれで算出される走行台キロがどの程度整合しているか、またどの程度の変化になっているかを確認

将来交通需要の概略推計フロー

第2回検討会で主に議論いただく内容